

Q20. 河川整備計画の整備を進める中で、令和2年7月豪雨が発生した場合、どの様なリスクが残るのでしょうか。また、大きな整備効果を発現するのは、いつの段階でしょうか。

○ 整備段階毎のリスクについては、整備による一定の効果の節目と考えられる以下の3つの段階に分けられます。

- ① 緊急治水対策プロジェクトの完了時点
- ② 川辺川の流水型ダム completion 時点
- ③ 河川整備計画完了時点

○ 河道内の水位が計画高水位を超えた段階で堤防が決壊すると想定した場合のシミュレーションを行った結果、下図のように各整備段階の効果として浸水範囲等が低減していく事は確認できます。一方で、氾濫のリスクは残ることから、リスクコミュニケーションが重要であり、各自治体と一体となって取り組みを進めることとしています。

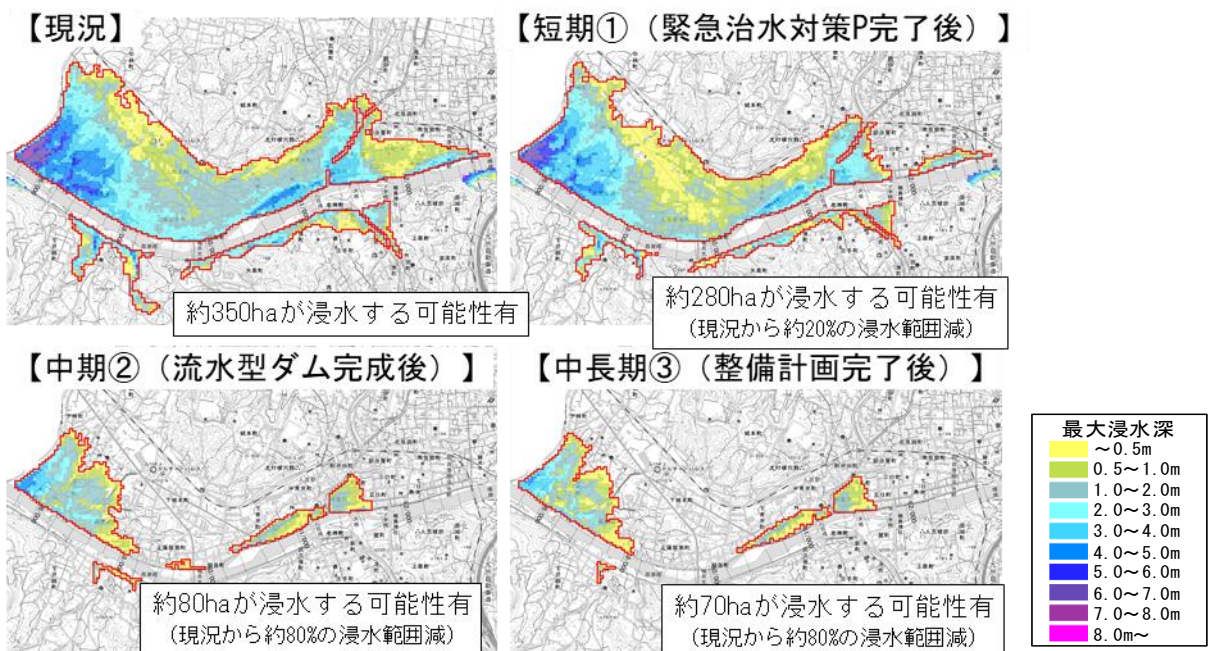


図 計画高水位を超えた段階で堤防決壊する場合のシミュレーション

- 一方、仮に河道内の水位が計画高水位を超えても堤防が決壊せず越流のみを想定した場合のシミュレーションを行った結果、流水型ダム完了時点の中期以降においては、堤防からの越水氾濫は発生しないなど、大きく浸水範囲が低減していくことを確認しています。

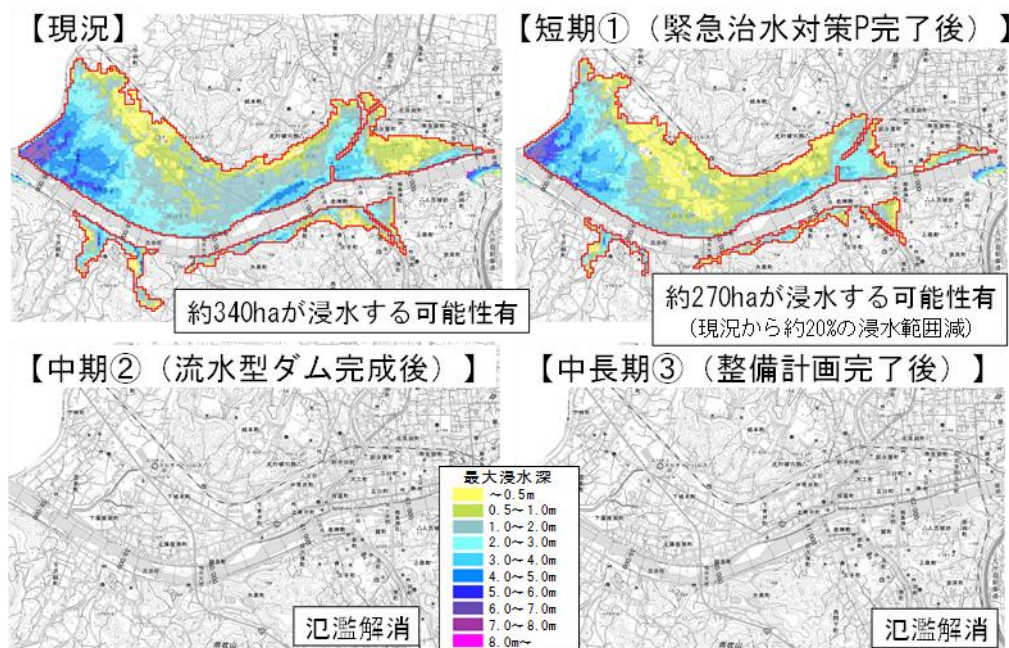


図 計画高水位を超えても決壊せず、越流した場合のシミュレーション

- 整備の進捗に伴うリスクの変化についてご確認したい方は [こちら](#) をご覧ください。
- なお、整備の進捗に伴うリスクの変化については、「令和4年度 第1回球磨川水系学識者懇談会」において、（資料-3）【意見に対する取組状況と考え方】にて示しており、八代河川国道事務所のホームページ [「令和4年度 第1回球磨川水系学識者懇談会」](#) に掲載しています。